

## “WE”のエンジョイライヴ

enjoy.01：押し花の公募展



静寂

今秋、横浜で開催される「押し花20周年記念全国大会」で、私が「押し花アーティスト」として表彰されるという連絡が入りました。

「ふしぎな花倶楽部」の押し花インストラクターだけでも全国3万人以上いる中で、まさかの受賞でした。

押し花との出会いは、充実した老後を送るために何かを探していた時でした。もともとお花が大好きな事と、美しい色を保った押し花に出会ったこと、更に年を重ねていくにあたって、ピンセット1本でも楽しめるイメージしたことも理由の一つでした。実際には早々安易な作業ばかりではありませんでしたが、植物や自然の美しさにすっかり心奪われてしまいました。新しい植物に出会った時のときめき、虫食い葉っぱや宙を舞うタンポポの綿毛の美しさにどれだけ心躍らされた事か。押し花がもたらしてくれた多くの感動と恩恵に、今はただ感謝するばかりです。

このたびの表彰理由は、十数年前、押し花仲間「押し花界だけでアートだと言っても始まらない。公募展で世間に認められてこそ」と説得された一言がきっかけでした。県展の締め切り間近になってから、ふと気負いもなく制作した作品が初入選。翌年は仲間を誘って出品すると、私も含めて3名が入選。これに気を良くし、更に次の年にはまた多くの仲間を声をかけ挑戦したのですが、作品を受付に持っていくと、ガラス使用のフレームは出品を認めることができない。受付にてガラスを外すように言われました。



小林美和子

「フラワーサロンWE」主宰

長岡市表町在住

押し花やフラワーアレンジメントの他、花のクラフトとして、ネイチャープリント、レカンフラワー教室主宰。

押し花が現色の美しさを保ったまま20年、30年いやもっと長期間にわたって変色せず楽しめるのは、空気を遮断するためのガラスが必要不可欠なのですが、結局ガラスは使用不可という線は覆されず以後、県展への出品は断念するしかありませんでした。

しかし、中央の上野の森美術館やかかりのところで、押し花を新しい芸術として受け入れていただきました。

このようなことを書くこと、いつもコンテストなどに向けて制作していたかと言うと決してそうではありません。押し花は私に自然の素晴らしさを教えてくれただけでなく、国内外を問わず素敵な仲間に出会えたこと。これが今の私にとってとても大切な宝物になっています。「WE」を通して多くの方から沢山のことを学ばせて頂きました。今は感謝の気持ちで一杯です。

“フラワーサロンWE”主宰・小林美和子、連載6回のスタートになりますが、以後宜しくお願いいたします。



長岡火花